

「Ａキューブ・スクール」実践モデル校について感想・意見

Ａキューブ・プラン専門研究会委員への検討依頼

「Ａキューブ・スクール」実践モデル校が提出した「Ａキューブ・スクールの実現に向けて」を、ホームページに掲載しておりますので、これについてのご意見をお聞かせください。

「Ａキューブ・スクールの実現に向けて」全体についての感想・意見

- ・各高等学校とも、情報活用の実践力に重点が置かれ、生徒の自主的な学習活動を伸ばしたいという意図が感じられる。
- ・各学校とも、自校の特色ある教育活動を踏まえた「Ａキューブ・スクール」の活用が事業内容に掲げられ、その教育的効果が記載されている。
- ・具体的に事業内容を展開するにあたっては、他の機関や提携校との連携や地域への交流を進めていく上で、教師がどのように係わっていくかにより、その連携・交流の在り方が大きく異なってくる。各学校とも生徒への教師の指導・支援体制を明確にしておくことが必要。
- ・ほとんどの高校が、生徒がいつでもどこでも物事の調査、レポートにパソコンを活用する事が情報活用能力の向上につながるという書きぶりであるが、パソコンを使う学習対象をむしろ絞り込まないと情報活用能力は低下するのではないかと懸念される。
- ・機器が導入され、環境が整備されることで、学校サイドの役割として一つで良いので、その活用方法の具体的な内容と計画を提示されるとよいと思う。それに対して外部の意見も出やすいし、機器が大量に入って途方に暮れているような学校も実践の参考になると思う。

e-learning の活用

- ・e-learning の活用において、物理的・空間的保障はされるが、時間的保障も確保できるか疑問。
- ・今後とも効果的に活用されることが予測されると思う。また、ＩＴを活用したＮＰＯ活動、地域に密着した体験学習も大変興味深い。
「すべての教員がＩＴを活用した授業実践」とあるように職員全員が活用していくという姿勢が必要であると思う。

提案

- ・生徒にメールアカウントを発行するようなことが可能であれば、デジタルでのレポート提出・添削など学習への支援も可能となると考えられる。

パソコン活用の欠点

- ・検索語の入力で調査できることが、パソコン操作能力を高めはするが、自分で動いて調

べ、生の事象に当たろうという意欲を減退させてしまう。

- ・インターネットやアプリケーションの形で見ることができるデータベースには、まとめた人や組織の志向、限界、間違いが含まれることが考慮に入っていないことはないか。
- ・具体的事物を目の前にしながら、パソコンで得られるデータに惑わされて事実をゆがめてしまう事はないか。

パソコンの利用対象の限定について

- ・他の方法では全く調べようがない事柄についてパソコンを活用する。
例えば英語圏以外で日本語がまったく話せない転入生がやってきて、職員もその言語を理解できない時、インターネットによるオンライン機械翻訳は、単語も文法も解さなくてもとりあえずコミュニケーションを取れるので重宝する。
- ・統計処理など数値化可能な事象を手早く処理したい場合に活用する。
例えば全員で地域の科学的調査をしたいとき、オンラインで位置や結果などの情報をやり取りすれば、調査の必要性やコンピュータ処理の本来の値打ちを理解できる。
- ・プレゼンを作ったりレポートを書いたりすることにパソコンを利用するのを否定するつもりはないが、とにかく今の大人も児童生徒も、簡単に知りたい情報をパソコンで入手できる事から、事実の複雑さや本物の持つ凄さに接する事ができず、皮相的理解で学習が終わる事が多くないかと危惧する。

海外との交流による（遠隔共同学習）について

- ・大変興味深いが、一つのテーマを持って、定期的に継続的に交流できるとよいと思う。